

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第10回高松市創造都市推進懇談会（U40／2期）
開催日時	平成28年7月28日（木） 18時30分～20時30分
開催場所	市役所3階 32会議室
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恋する灯台プロジェクトについて</li> <li>・前回のワークショップの振り返り</li> <li>・メンバーからのひとこと</li> </ul>
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	鎌田委員、香西委員、児島委員、高島委員、田中委員、中筋委員、西成委員、英委員、人見委員、広野委員、眞鍋委員、山家委員、若宮委員
職 員	土岐創造都市推進局長、佐藤創造都市推進局参事、橋本産業経済部長、平田産業振興課長補佐、溝渕産業振興課長補佐、塩田産業振興課係長、田山農林水産課主査、末澤産業振興課員、藤本地域振興課員、山田保健体育課主査、永木産業振興課主査
傍 聴 者	0人    （定員 5人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

#### 1 開会

#### 2 「恋する灯台プロジェクト」について

観光交流課長井部長から概要について説明後、ワークショップでスポットや地域の魅力のアイデア出し。

ご意見については別紙のとおり。

#### 3 前回のワークショップの振り返り

まとめた資料について、事務局から説明。ご意見は特になし。

#### 4 メンバーからひとこと

自分が活動している範囲外の人とたくさん交流できていろんな知恵をいただいたり、知らない世界を知れたことはとても楽しかった。いろんな委員をやってきたが、この会が一番楽しかった。ここでつながったことを大事にしていきたい。

高松市をどうしたらいいかみたいなことを考えるきっかけになった会だった。この会は今日で最後だけど、いろんな場面や側面で高松市を応援して、できることがあればお声掛けいただきたい。先日カンボジアで香川出身の方が学長をしている大学で、3日間映像の授業をしてきた。カンボジアの方はすごく純粋で、親日の方が多く、すごく親切にしてもらった。観光ルートも

## 審議経過および審議結果

オススの場所で組んでくれた。高松でもそんなおもてなしのサービスがあればいいなと思った。前回お知らせした「BOSAI たいそう」が仕上がった。よかったらYou Tubeで検索してほしい。

4年経ったことがおどろき。初めて会ったときは市民ではなかったが、いまや結婚して2人のこどももできた。自分自身は岸和田出身で、シビックプライドでは全国でも上位にいるんじゃないかというところで育ってきた。いまは全国をとびまわっているが、全国それぞれ違うということをやっと理解できた気がする。岸和田の常識がスタンダードだと思っていたときは、こうすべきとかこの考えは間違っていると思っていたが、高松には高松のスタンダードがある。フラットに多様性を考えながら、人口減に対応できれば。

振り返ると4年も経つとは思えない。はじめに比べると、自分自身の考え方や行動が変わった気がする。もしかすると守りに入ったのかもしれない。大人になったのか、無理なことを考えなくなったのか、始めた頃はなんとかいろいろ提案したいという気持ちで、1期目はかなり熱い議論を交わしていたなと思い出す。紺屋町カフェをやったり、公開U40をやったりしたが、今後はもっと広い層に、どうU40の活動を届けていくかが課題である。年齢がすごく大事。個人的には25歳～35歳は人生の中でも挑戦する時期だと思うので、そういう人たちの意見を取り入れられるようにできれば。行政も、1～3年目くらいの人に関わってほしい。オープンに開く、フリーの場づくりを進めてほしい。

この年になってくると良くも悪くも怒られなくなった。最近まちの中の居心地が悪いと感じるのは、批判しているつもりが陰口や悪口になっているからかも。批判が悪口になるのも嫌だから、ほんとは言いたいけど言わないみたいなどころがある。批判と陰口は紙一重。情報の伝わり方は関係性によって随分変わる。U40の中でようやく信頼関係を築けた。個人に対して市役所に対しても信頼関係ができた頃に卒業を迎えた。U40を通じて信頼を築いた上で、いい意味での建設的な批判ができるようになった。U40は、まちの船頭の集まりだけど、建設的に進められたのはよかった。このまちのキーマン、次世代を担う人の信頼関係が今後も築かれ、建設的な批判ができればいいなと思っている。

仲間が出来てほんとに楽しい会だった。これまでは行政との関わりがなかったが、行政の人の考えなどを知れて良かった。1期のときには紺屋町カフェで、みなさんに講師をお願いして、大変だったけど、いいことができたと思っている。C o クリエーションを作って、人見会長と各コミュニティセンターを回って紺屋町カフェでやったことを提案した。どこのコミュニティでも高齢化していて、結果的になかなか門戸が開かなかった。各コミュニティにU40があればいいなと思う。市民がもっと身近に市のことを考えたり関われる場があればまちが変わるのでは。普通の主婦やサラリーマンにもスポットライトをあててほしい。20代の若い人たちが、参加できる会にしてほしい。

コミュニティセンターを回ったのは、地域の良さを知るような講座をしませんかみたいな内容。企画がいくらよくても、受け手のコミュニティセンターの職員が、自分たちがどの予算のどの事業で受けたらいいのか消化できないまま、ふわっと終わってしまったように感じる。これがU40をいまいち有効活用できていないことを象徴していると感じる。

20代という弱輩者で、多くを学ばせてもらった会だった。現場ではないというコンプレックスがあった4年間で、自分自身、おもしろいアイデアがあっても、す

ぐには実行にうつせないのがもどかしかった。次のメンバーでは、アイデアを実行に移せるよう、市の人もバックアップしてほしい。

これまでやってきたことを整理してみると「自信」と「誇り」というキーワードをみつけた。右肩上がりの時代はそこに関わるだけで自分も成長・充実しているような感覚で、根拠がなくても自信が持てそうな時代だった。成長が終わり、人口減・税収減という中で、低成長の時代になると、じっとしていると縮小・減少・ブレーキがかかっているような時代になっている。こういう時代に、高度経済成長期に作っていたもの、例えば漆器などは、いまの時代に技術力が落ちたわけではないがモノが売れなくなった。同じことをやっても劣っているという時代空気が今である。そんな状況の中で大事なことは「自分の頭で考える」ということ。U40の場は、いやでも2時間頭を使ってアイデアを出すという場だった。2期目から行政の方も議論に参加するようになったが、ゼロベースでものごとを考えていくという意味で、このU40の場がユニークで、全国的に見ても価値がある取組みだと思う。多様な価値観を持った人たちが、ひとつの方向を模索していく、そういった場づくりがこれからの時代に求められている。この場がますます磨かれて発展していくことを願っている。

発言はあまりできなかつたが、考えさせれることがたくさんあった。

もう2年経ったのかという気持ち。2期の第1回で書いた目標に、「脱宿業」と書いて、普段やっていること以外に目を向ける場にしたいということを発表した。そのとおりになっているなど思っている。伝統工芸や食、空き家のことなどの情報をここで吸収できて、またそれが宿業にもつなげられたことがとても有益だった。

この2年間で生活の拠点などいろいろ変わった。U40に関してはもっとできるんじゃないの？という思いがずっとある。一番最初の回で、U40は学びの場ではなく実践する場でしょと発言したが、いまもそう思っていて、自分はプレーヤーだと思っているし、何か発言することに対しては、それを実現できるよう動きたいというスタンスで臨んでいる。U40は、みんなから出たすごくいいアイデアが、どこに行っているかわからない。これがみんなのモヤモヤの原点ではないか。自分はほかの市町とも関わっているが、特に小っちゃいまちほど自治体が動きやすいんだと思う。高松市は大きいからこそいろいろできるけど、何を目指してどこに行きたいのか自分には見えない。せっかくのいい会なので、続けるなら、目に見える形で実現に向けて動ける状況をつくりたい。

結果がどうであれ、ここで出たアイデアが、少なくともどこかの何かにつながるみたいなのができればいいのではないか。

あとは、より若い層の参加、よりオープンにすること。続けていくならこの3点をテーマにしないといけないと思っている。

地元でも活動しているが、かたちが目に見えるとやる気が出て次につながるなど感じる。U40のモヤモヤ感は、見えないところや、努力したことが自分にとってどう影響するかが見えなかったことにあるのかも。自分の思いをまげてまで実現することに意味はなくて、行政マンだからこうしないといけないみたいな型にはまりたくないし、自分の意見に誇りを持っていきたい。U40に参加できて、すごく刺激になった。

最初のスタンスは、スゴイ人の集まりに参加できるということで、吸収できたらいいなという思いだったが、初回の他の委員さんの発言で「学びの場ではなく生み出す場」というのがあって、自分の意識を変えさせられた。でも実際は圧倒されることも多く、まだまだできていないことばかりだったので、次はU40でつながっ

た方たちとも連携していきたい。

農業の担い手という立場で発言してきた。自分自身が関わったことでこの会にいい影響が与えられたかという何もしなかったなという印象をもっている。移住者目線で、高松のことをフラットに見れるという点を今後も活かしたい。自分にとっては多くを学んだ場で、プラスだった。みなさんと関わる中で、いろんな視点や考え方に触れて、自分の中の頑固な部分がやわらかくなってきたかなと思う。

U40に参加したいと思ったきっかけは、仕事の中で、担当者としてのアイデアはあるけど、中々思いが上に伝わらず、話が進められなくて、それを打破したいという思いからだった。参加できてとても刺激が大きかった。それを自分の中で活かしきれなかったところが自分の力不足だったが、今年に入って地域協働推進員になったり、子どもの小学校のクラブで役員をやるなど、少しずつ自分を変えていくきっかけになったかなと思う。

入庁以来ずっと同じ課で、知らず知らず固定的な考えになっていたことに気付かされた。この会でアイデアをたくさんもらった。

(事務局)

みなさんには大変お世話になった。20代30代という時期は、人生の中でも充実する時間だと思う。その時間をさいて御参加いただけただけのことを大変感謝している。

この会の良さは、ひとつは「考え方に枠がない」ことである。行政の人間は、実現可能性のあることしか考えないが、みなさんには可能性の有無に関係なくアイデアを出していただけた。ふたつ目は「利害関係がない」こと。審議会は団体の代表としての意見となるので、意見として固まってしまう部分が出てくる。みなさんからの意見を実現化していくのかというところで、みなさんの御期待に添えるものにならなかったことは申し訳なく思っている。我々のストライクゾーンはせまい。しかし、ボールを捕まえる努力は必要である。市としてはU40を続けていきたいと思っているので、引き続きよろしくお願ひしたい。